

# シラチャ校だより

泰日協会学校シラチャ校  
2025. 9. 30



## ひがた 干潟を見る視点

－ チョンブリー海岸でのマングローブ植樹活動から －

シラチャ日本人学校 校長 藤枝茂雄

9月16日(火)には、中学部7年生と9年生を対象として、チョンブリー・マングローブ林保全センターの校外体験学習を実施した。8年生が参加していないのは、昨年度から始めた環境教育の一環として、一年前の7年生の時にこの場所でのマングローブの植樹活動を体験しているからである。

今年度のマングローブ植樹活動の学習に関する単元構成が昨年度と大きく変わった点は、事前学習で干潟の生き物にも焦点を当て、「マングローブを植えたら世界の何が変わるのか」というようなテーマで、子供たちが広い視野からしっかりと準備をして、当日に臨んだことだろう。



7年生と9年生によるマングローブの植樹活動

中学部の廊下には、それぞれの生徒たちの学習成果物である、シオマネキやトビハゼ、ノコギリガザミなど、マングローブが群生する地域の干潟に棲む生き物のレポートがたくさん掲示さ

れており、本校で作成している資料集の「シラチャ・ペディア(2024)」の関連ページなども有効に活用しながら、<sup>しょうてんか</sup>焦点化された学習が進められている様子がよく表われていた。

実際のチョンブリー海岸の干潟は、学習内容が<sup>しば</sup>絞られた教室での<sup>ざがく</sup>座学や実験とは異なり、まさに学習材料や学習のきっかけとなる素材の無限の<sup>ほうこ</sup>宝庫である。

たとえば、今回、ムツゴロウとトビハゼ(=オオトビハゼ、ジャイアントマッドスキッパー)が同じ写真におさまる位置にいる姿が見られた。「この二匹の姿を見て何を感じるか?」という問いに対して、最初に、「ムツゴロウとトビハゼのどちらが<sup>おい</sup>美味しいか?」という疑問が<sup>わ</sup>湧いてくる生徒が多いかもしれない。しかし、タイの一般の人々の間では、これら二種類の魚が「プラー・ティーン」という名前でひとくくりにされていることを知ると、どちらもさほど重要な<sup>しょくようぎょ</sup>食用魚として認識されていないという予想がつ



同じ写真におさまった、ムツゴロウ(左下)とトビハゼ(右上)



チョンブリー海岸のムツゴロウ

き、その結果として、「食材用の魚として、<sup>あじくら</sup>味比べをしなければならないほどの価

値をもたない」(＝あまりおいしいとは思われていない)という仮説に結びつく。

(注) タイの図鑑などでは、トビハゼは、「プラー・ティーン」(ปลาตีน)、ムツゴロウは、「プラー・ティーン・ジュッド・ファー」(ปลาตีนจุ่มพรวด = 青い斑点のあるトビハゼ)として区別されている。

その根拠を支える「知識理解」は何かというと、日本では重要な食用魚は、「セイゴ→フッコ→スズキ」(関東)、「ツバス→ハマチ→メジロ→ブリ」(関西)など、同じ魚でも成長の度合いによって細かく呼び名が変わるケースがあることがあげられる。また、それ以外にも、素人には外見的に見分けが付きにくい「マダイ」、  
「チダイ」、「キダイ」、「ハダイ」などが、店頭では消費者向けにも区別され、食材としての価値も外見以上に大きく異なることが普通という実態があることなどによる。

ムツゴロウとトビハゼが同じ場所にいるという事実から思い浮かぶ次なる疑問は、「非常に生態のよく似ている両者が、なぜ共存できているのか？」ということである。

タイの人々に、猛毒をもつヘビとしてよく知られているコブラの仲間には、タイコブラとキングコブラがいるが、タイコブラは人里近くに棲み、キングコブラは人里から離れた森林に棲むなどの棲み分けを行っている。



一つ眼模様が特徴的なタイコブラ

棲んでいる環境や、生態もよく似たアナゴとウナギについても、海の中では、成長のサイズなどに応じた海域

での棲み分けがあることが分かっている。

タイの干潟におけるムツゴロウとトビハゼの共存の秘密は、どうやらエサにあるようだ。トビハゼは、ゴカイやカニなどの小型の生き物をエサとしてい



キングコブラ

るが、ムツゴロウは、泥の中の珪藻類(植物プランクトン)を泥と一緒に口に入れて選択的に食べているということである。その知識にまでたどり着いた生徒は、チョンブリー海岸の泥を持ち帰り、顕微鏡で観察して、珪藻類の存在を確認してみるとよいだろう。

もう一つ不思議なのは、「干潟を無防備とも思える姿で這い回るムツゴロウやトビハゼが、なぜサギやカモメなどの鳥類から逃れることができるのか？」ということである。



青色に輝く、幼体のシオマネキ

同じく干潟に棲むシオマネキ

というカニは、自分をエサにする「天敵」のアシハラガニが接近してきても「タッチの差」で巣穴に潜り込める範囲で行動する習性を身に付けている。「はたしてムツゴロウやトビハゼの避退行動はどうなっているのか？」— このようなことにも興味関心を向けながら、環境学習の一環としての干潟におけるマングローブ植樹を体験してほしいと思う。

# Never give up!

## ～400 人で創る最高の瞬間～

太田 賢吾

7月5日、第14回運動会を開催しました。朝方は雲が広がっていましたが、子供たちの登校とともに雲間から青空がのぞき始め、開会式の頃にはすっかり晴天となりました。一人一人が諦めず、力強く踊り、走り、励ます姿は、見る人の心を動かしました。また、保護者の皆様による温かいご声援が子供たちの背中を力強く押してくれました。しかし、運動会本番で最高の瞬間が生まれた陰には、子供たちの努力がありました。

5月下旬、5・6年生と中学生は運動会の運営に向けた係決めを行いました。実行委員会はスローガンの考案を皮切りに、生徒会種目と式の進行準備に取り掛かりました。装飾係は、当日の1週間以上前にスローガンの横断幕を完成させて掲示し、運動会への期待感を高めました。体育委員はラジオ体操の手本となるよう、反転した動きを何度も練習しました。審判係は、徒競走でスムーズな順位決定ができるように役割を分担し、体育委員とも協力しながら動きの確認をしました。

運動会当日に、子供たちが安心、安全に過ごせたのは、児童管理係のみなさんのおかげです。用具係は必要な道具の設置、片付けを素早く正確に行い、招集係は次の種目の紹介ボードを掲げました。放送係は、場面に応じたアナウンスを臨機応変に行い、応援団は学年の垣根を越えて互いを励まし合いました。得点係は、見やすく工夫された掲示方法で、勝敗の行方を分かりやすく伝えてくれました。

各学年、学部での表現や演技にも、工夫と創造性が見られました。日本とタイ、二つの文化を意識した演出も多く、国際理解教育に力を入れる本校らしい取組となりました。限られた練習時間の中、朝や休み時間を活用し、動画や音源で振り返る学級もあり、子供たち自身の発案で練習の質を高めていきました。このような積み重ねが、運動会当日の成功に結び付いたのです。

PTAの皆様からご提供いただいたスポーツドリンクで英気を養いながら、子供たちは最後まで力いっぱい取り組みました。この経験は、次に控える「シラチャ祭」へとつながっていくことでしょう。

中野 遥奈

今年のスローガンは「Never Give Up! ～400 人で創る最高の瞬間～」。その言葉どおり、全校児童生徒が心をつなげて挑んだ運動会は、競技や演技は大いに盛り上がり、多くの人の支えによって成功を収めました。

当日の円滑な進行には、5・6年生や中学生による係活動が欠かせませんでした。競技の進行や放送、得点掲示、用具の準備や片付けなど、それぞれが自分の役割を理解し、責任をもって動く姿が見られました。応援団も声と動きで仲間を励まし、赤白を越えて会場全体を盛り上げてくれました。縁の下で力を尽くした子供たちの存在こそ、行事を自分たちの手で作った証といえるでしょう。

中でも、最上級生である9年生の存在感は大きいものでした。わずか15人という少ない人数でありながら、応援団長や実行委員長、各係のリーダーを自ら引き受け、学校全体を引っ張りました。練習や準備の段階から「自分たちが運動会を成功させる」という責任感の下、後輩たちに大きな影響を与えました。少人数でも力を合わせれば大きなものを成し遂げられることを、まさに体現してくれたのです。

さらに、前日まで懸命にグラウンド整備や水分補給の準備をしてくださった用務員さん、スポーツドリンクを配付してくださったPTAの皆様のご協力も、子供たちを力強く支えてくださいました。児童生徒だけでなく、学校や保護者も一体となって創り上げた今回の運動会は、まさに「みんなで創り上げた最高の瞬間」でした。



今年度着任された先生方の文章を  
順番に紹介していきます。

## 幸せなお金の使いかた

数井智子

「幸せなお金の使い方」は、ここ2・3年、私の生活の中で大切なテーマの一つになっています。

ある日、能登半島地震で妻と子供4人を失った大間圭介さんの話を聞きました。大間さんは石川県の警察官で、地震当日は帰省中でしたが、非常事態で職場へ戻るため実家を出ました。その直後、目の前で、土砂崩れにより実家が飲み込まれ、家族を失いました。亡くなった3人の子供のうち、9歳の男の子が自分のお小遣いで、お父さんへのプレゼントとして、パーカーを買っていたそうです。今となっては、それは大間さんの唯一無二の宝物で、大間さんは息子からパーカーをもらったときは、「自分の小遣いくらい、自分の好きなものに使えばいいのに」と思っていたそうです。この話は、お金の「使い方」が幸せを作ると強く感じさせてくれます。お金は働いて得るものですが、それと同じくらい大切なのは、誰かのために使う心だと思います。子供が大切な人に気持ちを込めて使ったそのパーカーのように、真の「幸せなお金の使い方」をこれからも見つけていきたいと思っています。

## 「応援の力」

福留よしの

7月の運動会では、応援団を中心に、皆さんが仲間のために一生懸命応援する姿に大きな感動をもらいました。応援には、友達を勇気づける力があります。そして、それは団結や思いやりの心を育ててくれるものです。

私が取り組んできたチアリーディングは、応援から生まれたスポーツなので、少し特別な文化があります。それは、ライバルチームが演技しているときにも、全力でそのチームを応援するというものです。たとえ相手がミスをしてもしんぷいを送り、技が成功すれば一緒に喜びます。勝敗のあるスポーツの中でも、こうした姿勢はとても貴重で、美しいものだと感じます。運動会を通して、「応援の力」、そして「相手を認め、たたえ合うことの大切さ」に気付いたのではないのでしょうか。この経験を、今後のシラチャ祭や学校生活の場面にも生かしながら、さらに成長して行ってほしいと思っています。

# 10月の行事予定



日 曜	児童・生徒の予定	バス時刻
1日 (水)	・購買(配付日) ・シラチャ祭児童生徒鑑賞日	14:20 P1 15:25 P2-6 M1-3
2日 (木)	・購買(提出日)	14:20 P1-2 15:25 P3-6 M1-3
3日 (金)	・学級だより配信(小)	14:20 P1-2 15:25 P3-6 M1-3
4日 (土)	・シラチャ祭 保護者鑑賞日	14:20 P1-3 15:25 P4-6 M1-3
5日 (日)		
6日 (月)	・シラチャ祭振替	
7日 (火)		14:20 P1 15:25 P2-6 M1-3
8日 (水)		14:20 P1 15:25 P2-6 M1-3
9日 (木)		14:20 P1-2 15:25 P3-6 M1-3
10日 (金)		14:20 P1-2 15:25 P3-6 M1-3
11日 (土)		
12日 (日)		
13日 (月)	ラマ9世記念日	
14日 (火)		14:20 P1 15:25 P2-6 M1-3
15日 (水)	・全校縦割り班活動・購買(配付日) ・臨海学校保護者説明会(5年)	14:20 P1 15:25 P2-6 M1-3
16日 (木)	・購買(提出日)	14:20 P1-2 15:25 P3-6 M1-3
17日 (金)	・委員会活動(小)・校外学習(1年) ・学級だより配信(小)	14:20 P1-2 15:25 P3-6 M1-3
18日 (土)		
19日 (日)		
20日 (月)	・クラブ活動	14:20 P1-3 15:25 P4-6 M1-3
21日 (火)		14:20 P1 15:25 P2-6 M1-3
22日 (水)	・進学ガイダンス(9年,9年5時間授業)	14:20 P1 M3 15:25 P2-6 M1-2
23日 (木)	チュラロンコンデー	
24日 (金)	・全校縦割り班活動・購買(配付日) ・校外学習(3年)	14:20 P1-2 15:25 P3-6 M1-3
25日 (土)		
26日 (日)		
27日 (月)	・実力テスト(7,8,9年)	14:20 P1-3 15:25 P4-6 M1-3
28日 (火)	・委員会活動(中) ・校外学習(2年)	14:20 P1 15:25 P2-6 M1-3
29日 (水)	・進路面談(9年,9年5時間授業) ・購買(配付日)	14:20 P1 M3 15:25 P2-6 M1-2
30日 (木)	・進路面談(9年,9年5時間授業) ・購買(提出日)	14:20 P1-2 M3 15:25 P3-6 M1-2
31日 (金)	・進路面談(9年,9年5時間授業) ・学校,学年だより配信 ・学級だより配信(小,中)	14:20 P1-2 M3 15:25 P3-6 M1-2

★は特別バスです。通常の下校バスと時刻が違うときについています。

## 2025年度シラチャ祭

いよいよ10月4日(土)は2025年度シラチャ祭保護者鑑賞日となります。これまでの練習の成果を発揮するため、精一杯頑張る子供たちの姿をどうぞご覧ください。なお、詳細につきましては9月19日(金)に各クラスルームのストリームに配信済みですので、再度ご確認ください。

## 小1・2・3校外学習

10月17日(金)は小学1年生、10月24日(金)は小学3年生、10月28日(火)は小学2年生がそれぞれ校外学習を予定しています。

校外学習の目的は、学年やその学習内容によって様々ですが、普段、学習している教室では味わえない体験的な学習を行えたり、喜びや感動、驚きを味わえたりすることもその目的の一つです。さらには「地域を知る」ということも大切な学習の一つです。ぜひ、自分たちが校外学習に行く目的を明確にし、一つでも多くのことを学んでくれることを期待しています。

## 中学部実力テスト

10月27日(月)は中学部の実力テストです。7年生にとっては初めての実力テストになります。定期考査とは違い、これまでの学習内容全てがテスト範囲です。また、この結果は高校受験の上で大切な資料にもなります。日々の学習を大切に、計画的に取り組んでいきましょう。

## 9年進路面談

10月29日(水)より9年進路面談を実施します。面談日の3日間は、9年生は5時間授業での下校となります。詳細につきましては後日お知らせします。



